

多くの親子連れらが訪れ、にぎわいを見せた「こどもゆめ横丁」＝川崎市子ども夢パーク提供



### 子どもの手作り 商店街にぎわう

川崎・ゆめ横丁

川崎市子ども夢パーク(高津区)で3日、子どもたちの手作り商店街「こどもゆめ横丁」が開かれ、親子連れなど約2500人が参加した。子どもたちは商売の仕組みやおもしろさを学んだ。

「ゆめ横丁」は今年で9回目。小中学生が廃材を使って屋台を建設し、仕入れから商品

作りまで全てを担い、売値80円を上限に実際に商売をする。

今回は140人の子どもたちが飲食やゲーム、雑貨など33店舗を出店した。

白玉だんごと雑貨を販売する店には福田紀彦市長も立ち寄り、白玉だんごを注文して食べた。店を出した田口芽生子さん(11)は「おいしいと言ってもらえてうれしかった。またやってみたい」と笑顔だった。

夢パークの西野博之所長(54)は「自分たちで遊びや仕事を作り出す良い機会。主体的に  
取り組んで達成感を得る経験を手に入れてほしい」と話していた。  
【鈴木敬子】